

2025年度 学校関係者評価委員会



学校法人シモゾノ学園

国際動物専門学校

【 2025年(令和7年) 8月6日 】

1. 学校関係者評価委員会について

■ 学校関係者評価委員

- | | |
|---|----------|
| <input type="checkbox"/> 宗像 俊太郎 氏 (あさか台どうぶつ医療センター 院長) | 企業等評価委員 |
| <input type="checkbox"/> 太田 宗雪 氏 (株式会社 EDUWARD Press 代表取締役社長) | 企業等評価委員 |
| <input type="checkbox"/> 國分 達夫 氏 (東京都立 晴海総合高等学校 元校長) | 高校等評価委員 |
| <input type="checkbox"/> 齊藤 勉 氏 (多摩地区 高等学校 進路指導協議会 顧問) | 高校等評価委員 |
| <input type="checkbox"/> 伊野 聖一 氏 (卒業生) | 卒業生等評価委員 |
| <input type="checkbox"/> 高橋 麻理子 氏 (保護者) | 保護者等評価委員 |

■ 2025年度 第1回 学校関係者評価委員会

- 2025年7月3日(木) 14:00から16:00 【大宮国際動物専門学校 会議室(対面方式)】

- ① 開式の辞
- ② 学校関係者評価の概要説明
- ③ 委員のご紹介
- ④ 委員長の選任
- ⑤ 自己点検・評価のご報告
- ⑥ 意見交換等
- ⑦ 次回までの流れ
- ⑧ 閉式の辞

■ 2025年度 第2回 学校関係者評価委員会

- 2025年8月6日(水) 14:00から16:00 【国際動物専門学校 会議室(対面方式)】

- ① 開式の辞
- ② 学校関係者評価のまとめ
- ③ 学校関係者評価のまとめを踏まえた、意見交換等
- ④ 閉式の辞

2. 学校関係者評価について

■ お願いさせていただきたい内容について

- 本学園は、「高等教育の修学支援新制度」に機関認定されていることに加え、文部科学大臣による新たな専修学校の専門課程である「職業実践専門課程」に認定候補学科がその認定を受け、教職員一丸となって日々の教育活動に心を込めて務めております。
- これらの認定要件において、より質の高い知識・技術・職務実践能力等を学生が身に付けられるように、社会・企業等と密接な連携体制を確立し、教育活動を主とする学校運営の検証・改善を行うことを目的とした「学校関係者評価委員会」を開催することが求められております。
- つきましては、本学園が行った自己点検・評価をもとに昨年度の学校運営状況をご説明いたしますので、本学園の教育や学校運営の質の向上に向けたご意見・ご要望などをお伺いできれば幸甚に存じます。

■ 自己点検・評価について

- 専修学校の質の保証・向上における取り組みの1つとして、「自己点検・評価」と「学校関係者評価」と「情報公開」が様々な取り組みにおいて推奨されております。自己点検・評価は、文部科学省から評価表が例示されてはいるものの、各専門分野における教育活動状況の違いや地域性による学校運営活動状況の違いは多岐に渡って異なること等を踏まえ、文部科学省の委託事業として、「自己点検・評価における共通的評価基準モデル」の策定が2020年度より取り組まれました。
- 本学園では、それらの取り組みにおいて例示されている評価の仕方を踏まえ、本学園の教育と学校運営の質の向上につなげられる評価項目を設定し、各評価項目をどちらかといえば適切なのか不適切なのかを少しでも明瞭化できるように4段階評価にて行うことといたしました。
- また、4段階評価の根拠資料となるエビデンスは、多量になりすぎることを抑制すべく、内容を厳選して多くて3つ程度までとしております。

3. 学校法人シモゾノ学園の基本的な考え方について

■ 教育理念

- 「心を大切に 感謝の気持ちで自然を思い 人と動物の真の共存共生」
- 教育理念「人と動物の真の共存共生」を実現すべく、社会・企業等から高い評価が得られる人財・職業社会人を育成する教育事業を行う。

■ 基本の方針

- 本校の 入学者の受入れや入学者に求める資質についての基本的な方針「Admission Policy (アドミッションポリシー)」は、次のとおりとする。
 - 本校が求める 基礎学力 と 倫理観 を備える者。
 - 将来の職業として、動物関連業界に強い関心と熱意のある者。
 - 動物愛護 と 動物福祉 の精神に深い理解を持つ者。
- 本校の 教育目標に対する、教育課程や教育方法についての基本的な方針「Curriculum Policy (カリキュラムポリシー)」は、次のとおりとする。
 - 学生が専門的な知識や技術に加え、豊かな人間力・適切な社会人材・多様な資質 を身に付け、社会・企業等から高い評価が得られる人財となれるように、教育目的である育成人財像を掲げる。
 - 教育目的である育成人財像を基に、教育目標を「専門性の追求、道徳性・人間性の育成、動物福祉の実践」の3つに区分け、適切な 教育課程 (学内授業・学内外研修・企業連携実習 等) と 教育方法 にて「学生の立場に立った教育」及び「できないことを学生のせいにしない教育」を行う。
 - 学生が教育目標を達成できるように、PDCAサイクル 等を用いて、定期的な学習成果の検証 及び 必要に応じた改善 を行う。
- 本校の 卒業認定や学位授与についての基本的な方針「Diploma Policy (ディプロマポリシー)」は、次のとおりとする。
 - 人生を生き抜く多様な力 と 自分と周りの命 (人生) を大切にする心 を持ち、心豊かに活きて生きる資質を持つ者。
 - 人と動物の真の共存共生について、自身の考えを持つとともに他者の多様な考えにも理解を示せる者であり、主体的・積極的に取り組み続けられる者。
 - 本校に所定の修業年限以上在学し、所定の 授業科目 及び 授業時数 を履修した者について、校長は校長会議の議を経て卒業を認定し、学位を授与する。また、履修の認定について、試験 等の成績に基づいた厳格な成績評価を行い、校長は校長会議の議を経て、これを認定する。

■ 教育方針

- 「専門性の追求」を教育方針の1つとし、動物を取り巻く環境をしっかり理解し、動物業界で求められる知識・技術を追求し、戦力となる人財を育成します。
- 「道徳性・人間性の育成」を教育方針の1つとし、感謝の心を失わず、挨拶をはじめコミュニケーション能力の高い、品格の備わった人財を育成します。
- 「動物福祉の実践」を教育方針の1つとし、動物の生命 及び 尊厳を守る精神を養い、自然・環境・動物との共存共生を実践し広く社会に貢献できる人財を育成します。

■ 行動指針

- 各部署の役割の遂行とグループが一丸となって各部署の情報を共有し互譲互助で心を1つにして教育理念実現に向け邁進します。

2. 重点的に取り組む目標・計画について

■ 教育関連事項

- 教育課程編成委員会等を通し、教育目標・教育課程等の検証と改善を行い、教育の質の向上を行う。
- 学生が学習成果を適切に得られるように、教育の仕方等の検証と改善を行い、教育の質の向上を行う。

■ 学校運営関連事項

- 入学対象者の情報の受け方に合わせた、学生募集の仕方の検証と改善を行い、入学定員を満たす。
- 教職員が主体的・効率的に職務に取り組めるよう、学校運営の仕方の検証を行い、改善に活かす。

3. 評価項目・評価指標・エビデンスについて

■ 評価は、4段階で行う。

- 評価項目に対し、専修学校ガイドライン 及び ISO29993・21001 を踏まえた評価指標に則って評価を行う。
- 【3-15】・【4-4】・【5-9】・【11-1】について、本校の取り組み指針を踏まえ、本校は評価指標の3評価を4評価とする。
- 【3-17】・【6-7】・【8-3】・【9-4】について、評価指標の最高値は3評価までであるが、表記は4評価とする。

■ エビデンスは、評価の根拠資料となるものを厳選し、多くて3つ程度までとする。

1. 教育理念・目標		評価	エビデンス
1 - 1	学校の理念や社会のニーズを反映する教育目的・育成人財像は明確に定められているか。(専門分野の特性が明確になっているか。)	4	学則、学校案内書、ホームページ「挨拶/教育理念ページ」、教育課程編成委員会 議事録
1 - 2	学校における職業教育の特色は明確になっているか。	4	学校案内書、教育課程編成委員会 議事録、卒業生状況調査書
1 - 3	学校の理念・目的・育成人財像・特色・将来構想等が学生・保護者等に周知されているか。	4	学生の手引き、保護者会 案内・説明PP・レジュメ、学校関係者評価委員会 議事録

【自己点検・評価】

- ① 課題 及び 今後の改善方針・取り組み について
 - 全ての項目 について、適切な取り組みが行われている。引き続き、各取り組みの質の向上に取り組む。
- ② 特記事項
 - 特になし。

【内部監査】

- ① 参加者名 及び 実施日時・場所 について
 - 【監査を行った者】チーム③ 【監査を受けた者】チーム②
 - 【監査日時】2025年5月23日(金) 9:15 ~ 12:35 【場所】IAC東京校 会議室
- ② 監査結果
 - 全ての項目 について、適切な評価が行われている。

2. 学校運営		評価	エビデンス
2-1	教育方針や教育目標等に沿った運営方針が策定されているか。	4	事業報告書(学校HP 情報公開)、事業計画共有会レジュメ、教育課程編成委員会 議事録
2-2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか。(教務・財務の意思決定システム制度は整備されているか。)	4	寄附行為、理事会・評議員会 議事録、学園本部会議 議事録、組織分掌図
2-3	学校運営に関する(事業計画・予算編成・教育活動等)に対する評価を結論として取りまとめた評価報告書を作成しているか。	4	学校関係者評価 報告書、学校HP(画面の画像)、教職員研修 資料(兼任教職員 全体会 2023年度)
2-4	運営組織や意思決定機能は規則等において明確化され、人事・給与に関する規程も含め、有効に機能しているか。	4	寄附行為、組織分掌図、就業規則、理事会 議事録
2-5	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか。	4	学校運営指針、組織分掌図、学校関係者評価 報告書
2-6	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	4	教育課程編成委員会 議事録、学校関係者評価 報告書、学校HP(情報公開ページ 画面の画像)

【自己点検・評価】

- ① 課題 及び 今後の改善方針・取り組みについて
→ 全ての項目について、適切な取り組みが行われている。引き続き、各取り組みの質の向上に取り組む。
- ② 特記事項
→ 特になし。

【内部監査】

- ① 参加者名 及び 実施日時・場所について
→ 【監査を行った者】チーム② 【監査を受けた者】チーム③
→ 【監査日時】2025年5月23日(金) 9:15 ~ 12:35 【場所】IAC東京校 会議室
- ② 監査結果
→ 全ての項目について、適切な評価が行われている。

3. 教育活動		評価	エビデンス
3 - 1	教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。	4	教職員クレド、学校案内書、学生の手引き、シラバス
3 - 2	教育理念・育成人財像・業界のニーズを踏まえ、修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	4	学生の手引き、情報公開（様式4）、シラバス
3 - 3	教育理念・到達目標に沿って、学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか。	4	カリキュラム、学生の手引き、情報公開（様式4）
3 - 4	講義 及び 実習 に関するシラバスは作成されているか。	4	シラバス、シラバス・教育担当者のまとめ
3 - 5	学生によるアンケート等をもとに、適切に授業評価を実施しているか。	4	授業アンケート（学生）、学外事前・事後研修アンケート（学生）
3 - 6	適切な評価体制を有し、授業評価が実施されているか。（教育内容 及び その評価方法・手段・スケジュール は適切か。）	4	兼任教職員セルフチェック、授業参観評価表、授業評価アンケート（学生）
3 - 7	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか。	4	学校関係者評価委員会 議事録、教育課程編成委員会 議事録、企業連携実習 評価表
3 - 8	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	4	学生の手引き、実技試験評価表、校長会議 資料（進級・卒業判定関連）
3 - 9	人財育成目標の達成に向け、各授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか。	4	学校運営指針（コアコンピテンシー）、教職員 コンピテンシー
3 - 10	動物看護職関連分野との連携による優れた教員（専任・兼任共に）を確保するための活動が行われているか。	3	加盟団体一覧、企業連携研修 契約書・報告書・評価表、教育課程編成委員会 議事録、VN養成所 年次報告書
3 - 11	関連分野における先端的な知識・技術等を習得するための研修や教員の指導力育成等の資質の向上のための取り組みが行われているか。	4	企業連携研修 契約書・報告書・評価表、教職員研修 報告書、学科会議 議事録
3 - 12	カリキュラムは、自主学習を含む学習時間・学習方法を学生の生活時間や学習時間に配慮して設計されているか。	4	カリキュラム、学生の手引き、年間スケジュール
3 - 13	講義に関し、定められたカリキュラム 若しくは それに準じたカリキュラム が実施されているか。	4	カリキュラム、情報公開（様式4）
3 - 14	実習に関し、定められたカリキュラム 若しくは それに準じたカリキュラムが実施されているか。	4	カリキュラム、情報公開（様式4）
3 - 15	講義・実習等の受講前に学生の能力等に不足がないかを確認するためのアンケートやヒアリングを行っているか。	4	募集要項、入試面接（入試記録）、学生の手引き
3 - 16	動物を使用する実習・実験等に関する倫理や動物の福祉についての規則やマニュアルが整備され、公表されているか。	4	学校飼育動物管理規程、学生の手引き、学内掲示物（アニマルウェルフェア・動物の逸走防止対策）
3 - 17	学生の成績情報等への閲覧制限が適切に設定されているか。	4	個人情報管理区分、みんなで取り組む個人情報の管理、学籍管理

【自己点検・評価】

① 課題 及び 今後の改善方針・取り組みについて

- 全ての項目について、適切な取り組みが行われている。引き続き、各取り組みの質の向上に取り組む。
- 【3-10】(3/4評価)について、専門学校として求められている一般的な教職員数はしっかりと満たしているが、本校が独自で設けている高い教育の質を念頭においた教職員数には若干名及ばなかったことを踏まえ、自分自身を厳しく振り返る上で3評価とした。なお、2025年度期首においてはそれを満たす教職員数は確保されている。

② 特記事項

- 特になし。

【内部監査】

① 参加者名 及び 実施日時・場所について

- 【監査を行った者】チーム③ 【監査を受けた者】チーム①
- 【監査日時】2025年5月23日(金) 9:15～12:35 【場所】IAC東京校 会議室

② 監査結果

- 全ての項目について、適切な評価が行われている。

4. 学習成果		評価	エビデンス
4 - 1	年度末における就職率の向上が図られているか。	3	就職率データ(過去3年間)、保護者会資料、合同企業説明会実施要項
4 - 2	資格取得率の向上が図られているか。	4	愛玩動物看護師 国家試験補講スケジュール、美容学科会議 議事録、ステップアップ試験実施要項(一部抜粋)
4 - 3	入学者に対する卒業率はどうか。	3	情報公開(様式4)、事業計画 PDCA会議(学習成果状況報告データ)
4 - 4	在校生の社会的な活動に対し、それを把握し、評価する体制があるか。	4	学生の手引き、ボランティアマイル制度、ボランティアマイル表彰者リスト
4 - 5	学生の学習成果の評価に際して、育成する人財像に沿った評価項目を定め、明確な基準で実施されているか。	4	クレド、学生の手引き、校長会議 資料(進級・卒業判定関連)
4 - 6	教育・訓練 及び 実習 等を委託する場合、その目的・要望事項・評価項目等の依頼を明確にしているか。	4	企業連携実習 契約書、実習依頼状、実習評価表
4 - 7	動物看護総合実習等の企業と連携した実習について、依頼先と十分なコミュニケーションをとり、その内容・評価方法等を事前に定め、評価しているか。	4	動物看護総合実習 依頼書、動物看護総合実習 評価表、企業連携実習 評価表

【自己点検・評価】

- ① 課題 及び 今後の改善方針・取り組みについて
 → 全ての項目について、適切な取り組みが行われている。引き続き、各取り組みの質の向上に取り組む。
 → 【4-1】(3/4評価)について、「過去3年間の実績が就職率100%である」という4評価の指標を満たしていない。引き続き、就職希望者における就職率を年度内に100%とすべく取り組みを継続する。
 → 【4-3】(3/4評価)について、「過去3年間の実績が卒業率95%以上である」という4評価の指標を満たしていない。引き続き、入学者における卒業率を向上できるように日々の取り組みを良化させる。
- ② 特記事項
 → 特になし。

【内部監査】

- ① 参加者名 及び 実施日時・場所について
 → 【監査を行った者】チーム③ 【監査を受けた者】チーム①
 → 【監査日時】2025年5月23日(金) 9:15 ~ 12:35 【場所】IAC東京校 会議室
- ② 監査結果
 → 全ての項目について、適切な評価が行われている。

5. 学生支援		評価	エビデンス
5 - 1	進路や就職に関する支援体制が整備され、学生や保護者等に周知されているか。	4	学生の手引き、保護者会資料
5 - 2	学生の健康管理を担う組織体制は整備されているか。	4	年間スケジュール（健康診断スケジュール）、提携病院 契約書、救急技能講習 受講リスト
5 - 3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。	4	募集要項、学生の手引き、下菌龍二記念 奨学生（名簿）、家族入学支援奨学生（名簿）
5 - 4	学生相談に関する体制は整備されているか。（相談窓口が設置されているか。）	4	学生の手引き、カウンセリングルーム 案内、カウンセリング記録、学生相談 報告書
5 - 5	課外活動に対する支援体制は整備されているか。	4	学生の手引き、課外活動・サークル活動申請書、ボランティアマイル制度
5 - 6	学生の生活環境への支援体制は整備されているか。	4	シモゾノ学園のサポート制度、学校案内書（学生会館案内・学生マンション案内）、学生の手引き
5 - 7	保護者との連携は適切に行えているか。	4	学生の手引き、保護者会案内書、学校HP（在校生用ページ）、学生相談 報告書
5 - 8	卒業生への支援体制は整備されているか。	4	卒業教育セミナー 案内書、学校HP（卒業生向け求人票ページ）、MyID 案内物
5 - 9	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。	4	募集要項、学校運営指針、学生相談 報告書、学生の手引き
5 - 10	高校や高等専修学校等との連携によるキャリア教育や職業教育の取り組みが行われているか。	4	職業体験受け入れ関連書類、学校見学受け入れ関連書類、高校ガイドス一覧、

【自己点検・評価】

- ① 課題 及び 今後の改善方針・取り組み について
 - 全ての項目 について、適切な取り組みが行われている。引き続き、各取り組みの質の向上に取り組む。
- ② 特記事項
 - 特になし。

【内部監査】

- ① 参加者名 及び 実施日時・場所 について
 - 【監査を行った者】チーム② 【監査を受けた者】チーム①
 - 【監査日時】2025年5月23日(金) 9:15 ~ 12:35 【場所】IAC東京校 会議室
- ② 監査結果
 - 全ての項目 について、適切な評価が行われている。
 - 【5-9】(4/4評価) について、エビデンスの一部追加を提案した。

6. 教育環境		評価	エビデンス
6 - 1	施設・設備は、教育上の必要性に十分に対応できるように整備されているか。	4	授業時間割り表、施設使用割当て表、組織分掌図
6 - 2	防災に対する体制は整備されているか。	4	学生の手引き、防災・避難訓練 実施要項（避難型）、防災・避難訓練 実施要項（実践型）
6 - 3	実習室には検査に必要な設備が整備されているか。	4	施設使用割当て表、教育機器備品管理台帳、予算書
6 - 4	動物に協力してもらえる実習室 及び 必要な動物 が備わっているか。	4	施設使用割当て表、動物管理台帳
6 - 5	自己学習に必要な図書室 ないし 図書スペース 及び コンピューター が利用できる環境が整備されているか。	4	校舎案内データ、図書管理台帳、学生ラウンジ・図書室 利用規定
6 - 6	学校の施設や備品等は、定期的に管理・点検されているか。	4	修繕・備品等 中長期計画データ、予算書
6 - 7	実習室等の学校施設や設備の利用割り当て（スケジュール管理）が明確になっているか。	4	施設使用割当て表
6 - 8	海外研修制度はあるか。また、その際の学生への指示・教育は十分に実施されているか。	4	海外研修 報告・改善書（2023年度）

【自己点検・評価】

- ① 課題 及び 今後の改善方針・取り組み について
 - 全ての項目 について、適切な取り組みが行われている。引き続き、各取り組みの質の向上に取り組む。
- ② 特記事項
 - 特になし。

【内部監査】

- ① 参加者名 及び 実施日時・場所 について
 - 【監査を行った者】チーム② 【監査を受けた者】チーム③
 - 【監査日時】2025年5月23日(金) 9:15 ~ 12:35 【場所】IAC東京校 会議室
- ② 監査結果
 - 全ての項目 について、適切な評価が行われている。

7. 学生の受け入れ募集		評価	エビデンス
7 - 1	学生募集活動は適正に行われているか。	4	学校案内書・募集要項、入試・学費説明会説明PP、情報公開（様式4、プライバシーポリシー）、入試結果リスト（順位付け）
7 - 2	学納金は妥当であるか。	4	情報公開（財務）、学費の比較資料（同分野 他校の学費情報 等）
7 - 3	特別な対応が必要な学生への対応を定め、共有しているか。（身体的事項や精神的事項等）	4	入学相談室対応マニュアル、留学生対応マニュアル、進学ご相談カード（カルテ）

【自己点検・評価】

- ① 課題 及び 今後の改善方針・取り組み について
 - 全ての項目 について、適切な取り組みが行われている。引き続き、各取り組みの質の向上に取り組む。
- ② 特記事項
 - 特になし。

【内部監査】

- ① 参加者名 及び 実施日時・場所 について
 - 【監査を行った者】チーム③ 【監査を受けた者】チーム②
 - 【監査日時】2025年5月23日(金) 9:15 ~ 12:35 【場所】IAC東京校 会議室
- ② 監査結果
 - 全ての項目 について、適切な評価が行われている。

8. 財務		評価	エビデンス
8 - 1	中・長期的に学校の財務基盤は安定しているか。	4	学校HP (情報公開ページ 画面の画像)
8 - 2	予算や資金収支計画は有効かつ妥当であるか。	4	監査報告書、理事会・評議員会 議事録、情報公開 (財務)
8 - 3	財務について、会計監査が適正に行われているか。	4	監査報告書
8 - 4	財務情報の公開の体制整備はできているか。	4	財務情報公開規程、学校HP (画面の画像)

【自己点検・評価】

- ① 課題 及び 今後の改善方針・取り組み について
 - 全ての項目 について、適切な取り組みが行われている。引き続き、各取り組みの質の向上に取り組む。
- ② 特記事項
 - 特になし。

【内部監査】

- ① 参加者名 及び 実施日時・場所 について
 - 【監査を行った者】チーム② 【監査を受けた者】チーム③
 - 【監査日時】2025年5月23日(金) 9:15 ~ 12:35 【場所】IAC東京校 会議室
- ② 監査結果
 - 全ての項目 について、適切な評価が行われている。

9. 教育の内部質保証システム		評価	エビデンス
9-1	法令や専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がされているか。	4	監査報告書、就学支援新制度 機関認定確認書、文書管理規程、就学支援新制度 機関認定 対象校一覧（文科省）
9-2	個人情報に關し、その保護のための対策がとられているか。	4	個人情報保護規程、個人情報保護規程に關するSCのまとめの掲示物
9-3	自己点検・評価の実施と課題の改善を行っているか。	4	自己点検・評価委員会 議事録、学校関係者評価 報告書
9-4	自己点検・評価の結果を公開しているか。	4	情報公開（自己点検・評価の報告）
9-5	教職員の職務記述書を作成し、これらを適切な期間ごとに見直ししているか。	4	職務記述書、教職員面談記録（SCシート）
9-6	評価目標 及び 想定される評価範囲 を整理し、記述できているか。	4	授業参観評価表 一覧、授業参観評価表（講義形式・実習形式）
9-7	教職員に対する評価方法・スケジュール・評価の仕方等が書類として文書化されているか。	4	学校運営指針（GB）、学園 年間スケジュール、教職員 SCシート

【自己点検・評価】

- ① 課題 及び 今後の改善方針・取り組み について
 - 全ての項目 について、適切な取り組みが行われている。引き続き、各取り組みの質の向上に取り組む。
- ② 特記事項
 - 特になし。

【内部監査】

- ① 参加者名 及び 実施日時・場所 について
 - 【監査を行った者】チーム① 【監査を受けた者】チーム③
 - 【監査日時】2025年5月23日(金) 9:15～12:35 【場所】IAC東京校 会議室
- ② 監査結果
 - 全ての項目 について、適切な評価が行われている。

10. 社会貢献・地域貢献		評価	エビデンス
10-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献、学生のボランティア活動の奨励や支援、地域に対する公開講座や教育訓練（公共職業訓練等を含む。）の受託等を積極的に実施しているか。	4	生涯教育・社会貢献計画、ボランティアマイルの要項、飼育学科 出前授業報告書、学外実習等報告書（東京女学館、三茶こだま保育園）

【自己点検・評価】

- ① 課題 及び 今後の改善方針・取り組みについて
→ 全ての項目について、適切な取り組みがされている。引き続き、各取り組みの質の向上に取り組む。
- ② 特記事項
→ 特になし。

【内部監査】

- ① 参加者名 及び 実施日時・場所について
→ 【監査を行った者】チーム② 【監査を受けた者】チーム①
→ 【監査日時】2025年5月23日(金) 9:15～12:35 【場所】IAC東京校 会議室
- ② 監査結果
→ 全ての項目について、適切な評価が行われている。

11. 國際交流	評価	エビデンス
11 - 1 留学生の受入れや派遣について、計画的に活動するとともに、在籍管理等において、適切な手続き等を行っているか。	4	留学生用募集要項、入国管理局への報告書

【自己点検・評価】

- ① 課題 及び 今後の改善方針・取り組みについて
 - 全ての項目について、適切な取り組みがされている。引き続き、各取り組みの質の向上に取り組む。
- ② 特記事項
 - 特になし。

【内部監査】

- ① 参加者名 及び 実施日時・場所について
 - 【監査を行った者】チーム② 【監査を受けた者】チーム③
 - 【監査日時】2025年5月23日(金) 9:15 ~ 12:35 【場所】IAC東京校 会議室
- ② 監査結果
 - 全ての項目について、適切な評価が行われている。

【学校関係者評価】(総評)

■ 宗像 俊太郎 氏 (公益社団法人 日本動物病院協会 会長)

【企業等評価委員】

- 他校には面接の際に私が入室しても座ったままでいる学生を見かける場合もあるのだが、貴校の学生は挨拶がしっかりとて礼儀正しいと感じる。貴校では何か教育をしているのかお伺いしたい。
→ (吉川) 面接に自信がない学生や緊張してしまう学生には、就職サポートとして面接練習などを実施している。挨拶、言葉遣い、姿勢、笑顔など基本的なことができていなければ、面接以前にそもそも話を聞いてもらえないと指導している。
- 面接をしていると利他的な心がなく、自分のことばかりな人が多いと感じる。社会貢献は利他的でないとできないことであり、社会貢献の必要性を教えることは重要だと考える。
- 当病院では社会常識やマナーについて4月入社の際に一からやり直して教えている。貴校ではどのような教育は行っているかお聞かせいただきたい。
→ (吉川) 入学式直後に実施しているオリエンテーション研修も含め、本校卒業後は学生から社会人になるという気持ちの入れ替えを行っている。また本校では、社会人基礎力と称し、チームで仕事をする力や社会人としての人間性を醸造する授業も年間を通して行っている。しかし、現場で通用する段階にはまだ達していないと考えており、より良化していく必要性を感じている。
- 電話対応ができ、社会常識があり、コミュニケーション能力の高い学生が貴校から輩出されれば、貴校の評判もさらに高まる。今後さらなるブラッシュアップを期待している。

■ 太田 宗雪 氏 (株式会社 EDUWARD Press 代表取締役社長)

【企業等評価委員】

- 教育活動や学校運営について日々検証を重ねて取り組まれていることを改めて実感した。
- 職業実践専門課程の制度を導入されたことによる変化をお聞きしたい。
→ (下薦 僉章) 専門的な内容を学べる学習塾や専門教室などが、しっかりととした学校運営が継続して行い続けられるなどを厳格に審査されて法的にその学校運営が認められるようになった専修学校制度が施行されて約50年ほどになる。専修学校の起源を振り返ってみると、戦後の日本において和裁・洋裁やそろばんなどを学ぶ施設から始まっており、それらが社会に求められ定着し、地域経済や専門的な人財を必要とする分野にとっては特に必要不可欠な存在となり今日に続いていると伺ったことがある。職業実践専門課程は、その専修学校制度の教育の質をさらに向上すべく、教育課程の編成や教育活動の実施において多様な定められている要件をしっかりと毎年度満たしている必要があり、それらの取り組みをしっかりと行っている教育課程に対してのみ、文部科学大臣がそれを職業実践専門課程として認定する制度が設けられた。
多くの専門学校があり、多様な教育が行われている学科がある中で、その一定の要件を満たしていないものも一定数あり、職業実践専門課程の認定を受けている学科であるということは、高校の先生方や専門学校への進学を目指す方たちにとっては一つの安心材料になっているのではないかと考えている。ただその中身も十人十色の様々な教育内容があるため、学校選びをする際にはオープンキャンパスや学校案内、ホームページ等をしっかりと見ていただき、良い学校選びをしていただくことが大切であると思慮する。
- 教員のみなさんの声が聞きやすくて良いと感じた。

■ 國分 達夫 氏（東京都立 晴海総合高等学校 元校長）

【高校等評価委員】

□ 自己点検・評価の報告を受け、学校の現状を確認することができた。引き続き、多様な学生に対する細やかな対応、就職支援等を充実され、より良い教育に取り組まれていくことを期待する。

■ 齊藤 勉 氏（多摩地区高等学校進路指導協議会 顧問）

【高校等評価委員】

□ 昨今は貝のように心を閉ざし、人の話を聞こうしてくれない、頑なな若者も存在する。こうした若者に対しては、高校も専門学校も入学時から常に肯定的な評価を与えていかなければ、人の意見やアドバイス聞く耳を作れないのではないかと危惧する。

□ 6月30日の毎日新聞、7月4日の朝日新聞に小田原短大問題というものが掲載され、すぐに高校教員グループで情報が共有された。この事件は、小田原短期大学の幼稚園教諭免許の資格習得試験の際に模範解答の持ち込みを許可し、丸写しをさせていたというものであるが、これは教育の放棄であると愕然とした。人材不足で人が欲しいと言われているが誰でも良いわけではない。学校はしっかりと教育を行い、試験を受けさせなければならない。同様のことが札幌の専門学校でも起きており、専門学校が良い取り組みをしていても、このような悪いことが一つでもあると専門学校全体が負のイメージになってしまふ。適正な評価を定着させていくことで、専門学校全体の底上げに繋げていくことを期待する。

- 私が貴校に通学していた当時は、漠然と東京で暮らしたい、なんとなく犬が好きというクラスメイトが半数ほどおり、在学中に学校を辞めてしまう人が何名かいた。そして卒業しても動物業界に一度も就職せずに違う道に進んだり、動物業界に就職しても一年後には退職してしまう人が多くいた。私は小さい頃からずっとトリマーを志していたので、高い学費を支払い、時間を費やし勉強をしてせっかく卒業したのに動物業界に就職しないのはもったいないという気持ちであった。
- 当時の授業内容は広く浅い印象があり、英語や免疫学など実際のトリミングに直接的にはあまり活かされていない科目もあり、そういうものは改善されれば良いと考えていた。今回、この学校関係者評価委員就任にあたり、貴校のホームページを拝見したら、美容・デザイン学科の授業科目が当時に比べて非常に研ぎ澄まされていることが分かり、このカリキュラムで私も受講したかったと感じた次第である。
- 学生の卒業率と就職率の評価が4にならない原因はどこにあるのか悩ましく感じる。
- （下薙 恵子）伊野委員の在学当時以上に、現在の在校生は不安定な環境にいる方々も多いように感じている。卒業をしてくれればそれが一つの成功体験となるのだが、教職員に相談をせずに自分で退学を決めてしまう方が多い。何か繋ぎとめる手立てができるように検討して参りたい。
- （下薙 僚章）卒業率に関して申し上げると、評価を4にするには評価基準として入学した人数に対して95%以上の卒業者数が求められている。毎月の会議で学生が退学をしてしまう経緯や理由を細かく見てはいるが、繋ぎ留めきれない現状がある。相談をしに来てもらえれば対応策を一緒に検討することはできると考えるが、昨今は退学のお話をいただいた時点で辞める意思が非常に強く、こちらの話を受け付けてもらえない。退学という気持ちにならないように毎日学校に通いたくなる授業づくりや学校の雰囲気づくりなど、底上げしていく取り組みを継続しているがまだまだ至らない点があると捉えている。
- （吉川）愛玩動物看護学科は動物病院からの求人が多くあるため、ほぼ全員が内定する。トリミングに関しても、トリマーは人材不足が続いているので、コミュニケーションが的確に取れる人材であれば受け入れてもらっている。就職率を低下させている要因として、一つ目に動物園や水族館などの難関である就職先を希望する学生とのミスマッチがある。二つ目に学生の就業条件に対する強いこだわりが挙げられる。例えば就業条件の希望が10個あった場合、1個でも合致していないと私には合わない企業であるという評価を下してしまう。犬と日常を共にしている学科であると、職場へ愛犬を同伴したいという要望を持つ学生もいる。動物業界では同伴を許可している企業も存在するが、それは少数であり、就職条件とするのは難しいのだが、それが理由で内定を辞退してしまうなど条件をとても厳しく見ている学生もいる。就職先にすべてを求めるることは難しいこと、折り合いをつける必要性など学生に伝えてはいるが、なかなか結果に繋がらない学生もいる。就職の状況は、どの業界も早期化をしている。大学3年生が動物病院へ就職するタイミングは本校にとっては2年生の時期となる。愛玩動物看護学科以外の学科は修業期間が2年間しかないため、入学式の翌週から就職セミナーを実施している。自己分析をしたり、自己PRを考えたり、履歴書の書き方を学んだりと具体的な内容で1週間1コマの合計30コマを実施し、1年生のうちに就職活動の準備を終わらせるように取り組んでいる。2025年3月に卒業した学生で、本校の就職支援を受け続けている学生が両校で3名ずついる。既卒で雇用したいという求人があればすぐに連絡を差し上げており、また学生からも何か良い求人はあるかと連絡をいただくこともある。継続的にコンタクトを取れていることがサポートの繋がりであり、繋がりがある間はしっかりと情報提供をして支援をしていきたいと考えている。

□ ボランティアとはイベントに参加することを指しているのか。

→（吉川）学校が年間スケジュールに組み込んで学生が参加しているイベントなどの他に、学生が自分の時間を使って参加しているボランティアも対象として取り組んでいる。学生自らが主体的に動くボランティアにはいくつか規定が存在し、一切費用をいただかないことや、学校の授業を休んで参加しないこと等がある。

→（下薦 僉章）動物保護施設で預かっている動物たちの被毛管理のボランティアに参加してきた学生もいる。学校では得られていない情報を学生が聞きつけて参加している場合もある。

□ 在学中の息子は愛玩動物看護師の国家資格取得を目指している。長女は美容師の国家試験を受けたが、長女の通っていた学校では資格取得の合格率を上げるために、ある程度合格できると判断できるランクにいなければ受験をさせないという話であった。貴校ではどのように考えているのか伺いたい。

→（下薦 僉章）本校では受験したい学生が受験できるようにしている。本人の意思を尊重し、いわゆる足切りのようなことは一切行っていない。確認テストや模擬試験を通して現時点での実力はどの程度なのか、何が分からぬいかを明確にし、一つ一つ着実に理解できるようにするという手順を踏んでいる。正直、今の時期の段階では赤点の学生も少なくないが、ここから順次、合格には何が必要なのかを学生自身が認識していくことで成績が向上していく。例年、優秀な学生が多く集まり、まったく手をかけないで合格率100%であるという学校では決してなく、合格できるか不安視する学生もいる中で、全員合格ができるように教職員一丸となって最大限に努めている。

→（下薦 恵子）3年次の在学生は全員が愛玩動物看護師の国家試験を受験する。進路変更となり、資格が必要ないため、受験したくないという学生がいた場合にはその意思を尊重するが、去年は全員受験をしている。去年は最終段階で合格が厳しい学生がいたのだが、「やればできる！」と激励し、試験に送り出し、無事にその学生は合格したというエピソードがある。気持ちの持ちようが大切であると感じており、教職員が学生のやる気を引き出せるように導いていきたい。

□ 海外研修の重要度がどの程度かお伺いしたい。

→（吉川）海外研修は学内の研修とは異なり、別途費用を納めていただく必要がある。学生の割合でいえば、本校の学生数は両校で950名ほどいるが海外研修に参加するのはその内の50名ほどであり、参加しなかったことによる大きなマイナスはないものと考える。本校では20年ほど前から海外研修を実施しているが、その当時は日本では見られない施設や設備を見学できるということが最大の魅力であった。近年では日本の動物医療も海外にだいぶ追いついてきているため、そういう意味での海外研修の価値は若干変化していると捉えている。そういう状況の中で今も海外研修を続けているのは、これからの若い世代に日本の動物業界を変えていってもらいたいという思いがあるからである。精神的な先進国といわれるアメリカやイギリスに行き、アニマルポリスの勉強をしたり、動物保護に関する考え方を勉強することで世界の広がりを見てもらうことは非常に価値が高いと考える。犬の種類や考え方の違い、特に動物福祉や動物に対する寄付の心、世界観を学んでもらいたい。また、大手の旅行会社ではなく、英語で動物の解説をすべて行えるほどに特化している専門の旅行会社に依頼をしているため、現地でのコネクションも強く、個人ではなかなか行くことができない場所や体験ができる。ぜひ海外研修への参加申し込みをお待ちしている。

→（下薦 僉章）海外研修に参加した学生と不参加の学生で、愛玩動物看護師国家試験の合格率に差異が生じたり、就職の内定率が違ったり、就職後の活躍度合いが違うなど、そういったことはないのであくまで経験の差ということである。ご無理のない範囲でご参加を検討いただければ幸甚である。

□ 就職について、息子は街の動物病院に勤めたいと考えているようである。規模の小さい病院も良いと思うが、救急病院など他の選択肢も複数ある。息子は自分を過小評価しがちであるように見受けられるが、そういった就職先の選択肢についてどこまで先生方にご助言いただけるのかご教示いただきたい。

→（吉川）個人面談があり、その際に担任が導くことができればと考える。また、就職担当教職員との面談も実施している。トリマー希望であれば、病院トリマーなど自分がしたいことを具体的に理解しているかを聞いている。動物看護であれば、地域の診療施設なのか、1.5次診療なのか2次診療か、はたまた動物病院以外の選択肢かと決断を迫った時に、担任や就職担当がどの程度その学生のパーソナルな部分を理解しているか難しいが、他の病院も見るように声を掛けることはあると推察する。だが、学生本人が「〇〇病院に見学に行って△△が素晴らしいので2次診療に決めた」などとしっかりと気持ちが定まっているようであれば、それに対して敢えて他を勧めることはしない。様々な実習の中で動物病院からお声掛けいただき、そのまま就職する流れが多い傾向にある。実習に参加してチャンスを広げてもらい、規模の違いや地域の違いなど様々な角度から学生が就職先を見て、判断してもらえたたら良いのではないかと考える。

■ 「本校のイメージ」がどのようなものであるかをお教えください。

(宗像委員)

- 設備・教育の整った歴史ある専門学校であり、教員の質が高いという印象を持つ。安定した人材輩出を続けているが、学生個々の能力には幅があるようにも見受けられる。
- (下薦 恵子) おっしゃるとおり、学生個々に能力の差があることは否めない。その能力差を均一にしていくことを目標とするのではなく、最低ラインを引き上げていく努力をして参りたいと考えている。

(太田委員)

- 犬に詳しい方が多く、開校からの歴史が長いのに固定観念にとらわれず、常に時代に合った進化と変化をされている学校で、新たなことを取り入れるスピードが他校より早い印象である。また、教員スタッフの方、学生の皆さん、両校ともにとても礼儀正しく、コミュニケーションに力を入れている印象が強い。他校と比べても気持ちの良い挨拶をしてくれる職員・学生が多いと感じる。加えて、教員の方が長く継続して働かれている印象もある。ただ、女性教員やスタッフの方の顔が見えにくく感じるときがある。
- (下薦 恵子) 前半についてお褒めのお言葉を頂戴ありがとうございます。後半部分については改善していきたいと考えているため、もう少し内容を詳しくお聞かせいただきたい。
- (太田委員) 近年は女性活躍の時代である。弊社でも女性社員が全体の7割近く在籍しており、編集部にいたっては8割~9割ほどが女性社員である。女性も人の上に立ち、顔が見えるように我々自身も今後進めていかなくてはいけないという思いで意見を述べさせていただいた次第である。
- (下薦 恵子) たしかに学外での職務活動を担当する経験豊富なスタッフは男性陣が多い印象である。女性にも活躍の機会を設けていくように取り組んで参りたい。貴重なご意見をありがとうございます。

(國分委員)

- 貴校は前身の青山ケンネルの時代から、世の中の状況を的確に見極め、将来のあるべき姿を見据え、着実に成長を遂げてきたという印象を持つ。
- 貴校は、実践的な教育を重視しつつ、学生一人ひとりと丁寧に向き合い、彼らの個性と可能性を着実に育てる教育に取り組んでいると捉える。それは長期間に及び、学校関係者評価委員会において、11分野と多岐にわたる評価を行いつつ、そこでの提言を取り入れて、着実に改善に取り組んできたことからも明らかである。例えば、シラバスの作成等のカリキュラムに関わる改善などの大胆な改善の状況を目の当たりしてきた。
- (下薦 恵子) 國分委員、齊藤委員には本委員会の当初からご参加いただき、多くの貴重なご意見を頂戴してきた。少しずつではあるが、だんだんと成長させていただけていると感じている。今後も価値のある教育活動に取り組んで参りたい。

(齊藤委員)

- 入学試験をそれぞれの選抜方式によってきちんと実施しているようで、堅実な学校という印象である。動物看護師の国家資格化に貴校の理事長がご尽力されており、専門学校教育や業界の発展のために尽くす学校と考えている。
- (下薦 恵子) 愛玩動物看護師の国家資格化に向けた取り組みの中では、中心となって活動をさせていたいた。その活動の影響を学内の教育にも活かせていると自負しているが、他学科にも注力しながら教育の質向上に取り組んで参りたい。また、IAC東京校は今年度から総合型選抜入試を開始し、現在は第2回が終了したところである。総合型選抜入試ではどのような学生が入学を希望するのか、緊張と不安を持ちながら試験日を迎えたが、志が高い学生が多く、安堵した。本校の本試験は10月1日から願書が受付開始となるため、総合型選抜入試と合わせて相対的にどのような方向性で選考したら良いのかを検討して参りたい。

(伊野委員)

- 自分自身が経営している店舗ではスタッフを雇用していないため、昔サロンに勤務していた時の話になってしまうが、貴校から研修に来る学生は気持ちの良い子ばかりで好印象であった。正直、当時は技術面では他校の生徒の方が上と感じることもあったが、現実的に新卒者が技術面で即戦力になることはないため、最終的に「採用したくなる」「応援したくなる」「この子良いな」と思えるかどうかは、挨拶や仕事に対する前向きな姿勢、積極性や自発性といった人間性による部分が非常に大きいと考える。そういう面において貴校の学生は他校よりも優れているという印象を強く持っている。
- (下薦 恵子) 過分に評価をしていただき恐縮である。技術面も評価していただけるように、一層教育に注力して参りたい。

(高橋委員)

- 伝統と誇りを感じる。
- (下薦 恵子) 気を引き締めて、ご期待に応えられるように今後も努めて参りたい。

(宗像委員)

- 下薦 恵子先生とは何度もお会いしているが、貴校の教員とはあまり会う機会がない。他校では病院に実習生が来るタイミングに合わせて定期的に教員が挨拶に来てくれており、そこで交流ができている。貴校でもそういう取り組みをすることは人員的に難しいのか伺いたい。
- (吉川) 本学園もインターンシップ実習の際に、インターンシップ実習先へ教職員がご挨拶に伺っていた時期がある。しかしこの数年は取り組みを見合わせている。その理由の一つは、担当する教職員には年次が浅い者もあり、ご挨拶に伺ったとしても、院長先生等と十分なお話ができるのかを懸念している。正直なところ、インターンシップ実習先に就職を希望する学生がいた場合、「いい子なのでよろしくお願ひします」とお伝えしたい気持ちもある。だが、挨拶回りをした場合、1日に4件～5件が限度であり、業務効率的にも一旦控えさせていただいている現状にある。
- (宗像委員) 他校でも若い教員が当院に挨拶に来ることもある。その際も学校のためになるならと考えて、時間を取って対応をしている。その場に実習生を呼び、教員の前で褒めてあげるようにしている。そうすることで実習生も意欲が向上し、良いコミュニケーションが生まれる。若い教員であっても挨拶に来ることに問題はないと考える。

■ 「いい学校」とはどのような学校であるかをお教えください。

(宗像委員)

→ コミュニケーションスキルを磨くことができる学校。社会貢献を考えられる学生を輩出できる学校。国家資格の合格率が高い学校。カリキュラムがしっかりしている学校。臨床経験豊富な獣医師・講師が在籍している学校。基本的な実践スキルを身につけられる学校。就職先のマッチングの質を評価しフィードバックができたり、個別に丁寧に教育が行えたりするなど卒後教育ができる学校。感染・衛生意識をマスターできる学校等であると思慮する。

→ (小川) 我々も「いい学校」となるように様々な取り組みをさせていただいているが、宗像委員のご意見をいただき、その答え合わせができたという印象を持った。「社会貢献を考えられる学生」というのは非常に必要であると認識しており、本学園でも奨励する取り組みをさせていただいている。その一方で、「卒後教育ができる学校」というのは、その重要性を理解しているのだが、卒業生との関わりを持つ機会が少なく、募集をしてもなかなか参加者が集まらない現状にあり、対策に苦慮している。我々が提供しているコンテンツの再確認として、在学時には教えられなかった応用編の講習を行ったり、働き始めてから必要性を感じる店舗運営や独立の知識等について学んでいただく機会を設けるなど取り組んでいる。卒後教育で学生に提供すべき内容があればお伺いしたい。

→ (宗像委員) 実技がなかなか上手くできない学生が多く、一から教える必要がある。太田委員が勤務されている株式会社 EDUWARD Pressでも開催されているが、実践的なセミナーに参加して技術を磨いてもらいたいと考える。問診の仕方や採血がすぐに行えると貴校の評価がさらに高まると感じる。問診では、話を引き出す能力や飼い主様の話をまとめる能力が必要となる。

→ (下薗 恵子) EDUWARD Press様のセミナーではどのような内容で実施されているのかお教えいただきたい。

→ (太田委員) 採尿や採血などについてのセミナーを開催している。

(太田委員)

→ 良い学校とは、学生が先生・スタッフ・校長に対して質問をしやすい雰囲気づくりをしていると考える。また、学生に近い未来、もしくは業界で活躍している事例や人など憧れる職業像をたびたび示していることや、先生方が外の環境や業界を見に行ったり、勉強したりする時間を取りっている、取らせていることが挙げられる。

→ (小川) 本校でも質問しやすい雰囲気づくりの一つの取り組みとして、クラス担任制を導入していたり、様々な動物の飼育管理等を通して学生と教員が関わりを持てる環境づくりに取り組んでいる。外部での研修参加など教職員育成に関わる面も非常に重要であると考えている。今後も引き続き尽力して参りたい。

(國分委員)

→ 「いい学校」を記述することは、とても難しいことだと捉えている。自分の経験から話をさせていただくとしたら、都立高校を立ち上げた経験から述べるのが良いかと思う。都立学校であるから、「都民から信頼される学校」(選ばれる学校)が「いい学校」ということになるのだと思うが、それには、「特色ある学校づくり」を推進して、多くの受験生と保護者の心をつかむことが重要であり、この特色が魅力となり、特色を実現する教育活動の実績が信頼につながっていくのだと思慮する。

都立学校においては、強い特色を打ち出すことは非常に困難なことではあるが、強く求められることもある。特色を実現できるように情熱を注ぎ、都民の信頼を得るのが管理職の役目だと考えている。

→ (小川) おっしゃるとおり、特色を打ち出すことは難しいことであるが、しっかりと向き合い、取り組んで参りたいと考える。

(齊藤委員)

→ 質の高い教育をすることはもちろんあるが、学生を見守りつつ、何かあれば教職員が共通の理解のもとに積極的に関わる(見逃さない)学校だと思慮する。学生から教職員に対する信頼感が感じられることも大事であると考える。ある専門学校の学生は、質問に対して先生自身が持っている知識を余すことなく丁寧に答えてくれるので大変勉強になる、この学校に入って良かったと述べていた。

→ (小川) 信頼が感じられるというのは「いい学校」の大前提だと個人的にも感じている。委員のみなさまにいただいた貴重なご意見を参考に、「いい学校」となるための様々な要素を積み重ねて参りたい。

(伊野委員)

- 理想や夢、憧れ持って入学してくる学生たちに対し、期待していた以上の学びや成果を提供できること。そして、自信と誇りを持って社会に羽ばたいていけるような教育ができる学校こそが「いい学校」だと思う。
- (小川) 最近の学生はなかなか自分自身に自信がない学生が多い。自信を持たせるためには教職員との信頼関係や教育内容の充実さが土台としてあると思慮する。いただいたご意見を真摯に受け止め、今後の教育に活かして参りたい。

(高橋委員)

- 卒業までモチベーションを維持できるような工夫がされている学校が良いと考える。
- (小川) 長い学校生活の中で、様々な状況下にいる学生たちの気分や気持ちの上がり下がりはどうしても発生してしまうと考える。担任制を取ってはいるが、クラス担任だけでなく学校全体で学生と向き合い、モチベーションを維持していくように尽力して参りたい。

(下園 優章)

- 美容の分野では様々な流派やトリミングの仕方があり、真逆な評価を受けてしまうこともあるのではないかと危惧している面もある。卒後教育で取り組むべき内容や期待する教育などあればお教えいただきたい。
- (伊野委員) トリミングにしか注力していない学生がいる。トライマーは実際に現場に出ると、犬と接することと同じくらい、飼い主様とコミュニケーションを取ることが必要になる仕事である。そういうことを理解していないと、人前に立った時に学生本人には悪気はなくとも、お客様から見たら印象が悪く感じられてしまうこともある。技術だけでなく、接客面も備わっていると良いと考える。

- 本校に求めるものを改めてお伺いさせていただくと、どのようなことを期待されており、それらをどの程度まで教育・指導・実施することが求められているかをお教えください。

(宗像委員)

- カリキュラムで学ぶこと以外に、特に即戦力につながる分野（計算、衛生管理、採血・保定等の実技）が理解できている人材を輩出することを期待する。また、動物病院は命を扱う現場であるという認識やストレス耐性のある人材を輩出することや、一般的な組織人としての意識、コミュニケーション能力、社会貢献への意識を身に附けていることを求めている。
- (和知) 即戦力につながる分野として愛玩動物看護学科だけでなく、美容・デザイン学科、自然環境・動物飼育学科、ドッグスペシャリスト学科のそれぞれに関わる現場で活躍されている方々と連携や擦り合わせを行なながら、どのような教育をどこまでするのか、検討を進めてしっかりと取り組んで参りたい。また、それらは時代によって変化していくものであると認識しているため、毎年現場の方にお話を伺い、それを教育活動に活かして参りたいと考えている。宗像委員の述べている「ストレス耐性」とは具体的にどのようなことを指すのかお伺いしたい。
- (宗像委員) 現場は想像しているよりも過酷なこともあります、ショックで退職してしまう人もいる。学生時代からストレスに強い人材になってもらえると良い。
- (和知) 私の世代では、少しの体調不良は我慢して学校に行くように親から言われたり、食事は残さずに食べるように教育されてきた。それが最近の若者は、少しでも具合が悪ければ学校を休んで良い、嫌いな食べ物は残して良い、と言われる世代になった。そのような学生たちにストレス耐性を教えることは非常に難しいと感じてはいるが、本校では人間力養成講座という授業の一部でストレス耐性についての項目を設けて教育を行っている。詳しくは本学園の原よりご説明させていただく。
- (原) 卒業該当クラスの授業に取り入れているコンテンツとして、ストレス耐性については2時間ほど授業を行っている。先ほど宗像委員よりお話をいただいたとおり、現場に出ると過酷であり、第一希望の就職先へ入社した学生でも多かれ少なかれアリティーショックを感じている。そういうことが就職後には待っているのだということを伝えるとともに、良い我慢と悪い我慢があり、自分を成長させるために時には我慢も必要であることを教えている。その他にも、最近メディアでも取り上げられている「レジリエンス」という、困難をしなやかに乗り越え、何か負荷がかかっても回復していく力が非常に大切であると学生に伝えている。委員のみなさまのご意見を踏まえて、授業コンテンツのブラッシュアップを続けて参りたい。
- (下薦 僚章) 高校生に対する、こういったストレス耐性を強化するためのコアアプローチはどのようなものがあるのかお伺いしたい。
- (國分委員) 人の生き方や在り方について、教育課程に位置付けて教えていく時代だと考える。昔の貧しい時代には、親に厳しくしつけられたり、たくましく社会に関わっていこうと自分自身で考えて生きていたと思うが、豊かな時代になると自分で考えなくとも、なんとなく生きていくってしまう。何のために働くのかを明確にし、自分の良さを生かして社会に関わりたいという目的意識を育ててあげることが、ストレス耐性を育てる一助になるのではないかと思慮する。1年次から社会について勉強をさせて、今の社会を理解させることが必要である。ファミレスでは接客にロボットが出てくる時代であり、接客サービスをするよりもロボットを作ったりシステムを構築したりすることが今の社会では求められる人材であるだろうと推察する。社会をしっかりと学び、学生一人一人が持つ自分の良さを自己認識させること、そして職業についても、その職業で求められる人材など学びを深めていくことで、みなさんがお話をされていた課題を解決することにつながるのではないかと考える。
- (齊藤委員) 最近の高校生は、学力はあってもストレス耐性については持ち合っていないと感じる。多摩地区で進学実績が最も高いのは都立国立高校であるが、その高校でも教師は生徒を叱ってはいけないと指導されているそうである。ストレス耐性を身に付けるためには勉強以外で人間関係を深める環境を作り、一つのものを作り上げていくことが大事であると思慮する。勉強だけではなく、日々の行事やイベントなどで生徒同士が意見を出し合い、個性をぶつけ合いながら何かを為していくことがストレス耐性のある人間を作る一つの道ではないかと考える。また、今の高校生を見ていると、同時並行で物事をこなすことができず、一つのことを終わらせないと次に進めないというこだわりが垣間見える。手塚治虫という漫画家は、全盛期は連載を毎週4本～5本ほど抱えていたが、彼はどうやって書き上げていたのかというと、複数の連載を机に広げてそれぞれ1枚ずつ並行して書いていたというエピソードがある。学生にも同時並行で物事に取り組むことができるようになってほしいと感じる。

- (宗像委員) 齊藤委員のおっしゃるとおり、マルチタスクができない学生が多いと感じる。様々なことを頼むと頭がパンクしてしまい、忘れてしまう。一つ一つ終わらせて、その都度、指示をしていかなければならない。
- (下薦 僉章) 我々、教職員の中にもマルチタスクを苦手とする者もいる。まずは我々が学生の手本・見本となれるように注力していきたい。

(太田委員)

- 企業、病院への就職に際しては、在学中に自己（セルフ）スキルチェックシート、客観（先生）スキルチェックシートなどを入学時である1年次から取り組んでおくと、全ての項目でなくとも、社会性項目（社会人必須項目）の他、成長項目、苦手克服すべき項目、時間をかけて身につけていく項目等で、学生自身も成長目標や目標設定ができ、学生に寄り添った指導できるのではないかと思慮する。また、弊社でも実施していることではあるが、貴校でも教員・スタッフの方々にもスキル向上の機会を与え、なりたい自分像の確認をしてあげてもらいたいと考える。
- (和知) 愛玩動物看護学科は学外実習に行く際に、学生自身によるセルフチェック教職員からの評価を組み込み、ポートフォリオを実施している。この取り組みを他学科にも広めて参りたいと考える。御社ではどのようなことを実施しているのか、具体的な取り組みについてお聞きしたい。
- (太田委員) 弊社では会社名である EDUWARD Press の頭文字を取り、「Eシート」と名付けたセルフチェックシートがある。これは全員が目標とするものと、上長がこうなってほしいと望むものを擦り合わせて作成されており、半年ごとに見直している。学生本人は苦手と感じていることも、先生から見るとできていると評価されることもあると推測する。そういう意味でもチェックシートを活用できると良いと思慮する。

(國分委員)

- 私は、私立の高等学校でも学校経営に取り組んできたが、上記の「いい学校」で述べた都立学校での経験から得た考えは変わるものではないと思慮する。時代を見据えて特色ある教育の方針を明確にしつつ、その魅力のもとに集まった学生を着実に育て、社会に関わらせるという実績を積み上げていくことだと考える。特色を打ち出すことは容易なことではなく、多くの知恵の集結が求められる。また、多様な価値観を持った学生を指導することは、非常に難しいことではあるが、チームとしてまとまって対応することが求められると捉える。
- (和知) 本学園は5つの学科があるが、互譲互助の関係にあり、チームとしてまとまっていると感じる。今後もそのチーム制を活かして学生指導をしっかりと行って参りたい。
- (國分委員) 学生指導は、言葉は悪いが「寄って、たかって」という言葉が当てはまると考えている。みんなで同じ考えを持ち、みんなで協力し合いながら指導するというのが大切なことであると感じる。先生方も様々な価値観があり、生徒は多様化している。指導者側の方針が安定していないと学生も揺らいでしまう。意思統一が必要であり、先生方がよく話し合い、チームとして対応することが求められる時代なのではないかと思慮する。
- (和知) 学生のことをしっかりと共有している教員のチームは学生指導が行き届いているという印象がある。頂戴したご意見を真摯に受け止め、今後の教育活動に取り組んで参りたい。

(齊藤委員)

- 学校経営と教育のバランスを取りつつ、教育に対する不思議な姿勢と変化に柔軟に対応できるしなやかさ、その両方が必要だと考える。どの程度までという問いは難しいが、就職先での卒業生の評判が良いこと、動物系専門学校での教員採用の際に卒業生を採用したい学校になっていることが一つの指標であると感じる。
- (和知) 「教育に対する不思議な姿勢」という箇所につきまして、具体的にお聞かせいただきたい。
- (齊藤委員) 学生のことを真摯に考えているのかということである。長い間、専門学校を見てきているが、良い教育をしている学校が生き残るとは限らない。授業中、日本語を一切禁止しているという評判が非常に高い英語の専門学校があったがそこも廃校となつた。良い教育をしているというだけでは学校運営を継続していくことはできず、時代の変化に対応し、その時代に合ったニーズに適合していく必要がある。また、後者の卒業生の採用に関する話だが、動物系専門学校ではないが、とある専門学校の卒業生を採用した方がリスクが少ないという話がある。その学校の在学中の教育が影響を与えていたという印象を受けた。

(伊野委員)

- 7月の委員会の帰りに貴校の教務部部長である吉川さんから美容実習の現状についてお話を伺い、とても良い方向にシフトしていると感じた。昔の犬の負担を無視したトリミングのやり方ではなく、今後は犬の負担を軽減し、安心を最優先にする施術方法がスタンダードになっていって欲しいと私自身も強く願っている。他校の実習スタイルは分かりかねるが、もしこのような取り組みが貴校特有のものであるならば、それは大きな強みであり、他校との差別化の要素になるため、より認知されるべきだと考える。
- 少子化の影響でトリマー志望の若者が減少傾向にある中で、せっかく他校よりも素晴らしい取り組みをしているのに、私が学生だった頃のように「なんとなく」入学した学生がクラスの半数を占めるようでは意味がないので、高橋委員や大平委員のお子様のように、強い志を持った芯のある学生が貴校に集結してくれたら、学生・学校・業界のどれにおいても非常に良いことだと思慮する。そのためにも貴校の強み、差別化ポイントがより一層、認知されることを期待する。
- (和知) 本学園では十数年前から「動物に負担がない」という取り組みを行っており、その成果が出ていると捉えている。学校説明会でもこの取り組みは説明しており、高校生たちもその点を他の学校との違いとして本学園を志願してくれているため、必然的に動物に優しい学生が集まっている。この動物目線に立った取り組みは他の学校では見受けられないことであり、本学園の特色であると自負している。卒業生が本学園を卒業したことを誇りに思えるように今後も尽力して参りたい。
- (伊野委員) 正直な話、本委員会参加のお声をいただくまで、貴校のことを振り返ることはなく、卒業後、約20年ぶりに貴校のカリキュラムなど現状を拝見させていただいた。第1回目の委員会時にもお伝えしたが、現在のカリキュラムを見ると非常に楽しみな気持ちになり、もう一度貴校に通って学びたいという思いを抱いた。この20年間で多くの努力をされてきたのだろうと推測する。
- (下薙 恵子) 当時も最善で取り組んでいたが、時代の変化とともに教育も変化している。動物に負担のないトリミングをすることは非常に多くの労力を費やし、教員それぞれが教わってきた内容が180度回転するほどの意識変えをする必要があった。この取り組みの必要性などを話すと教員たちは賛同し尽力してくれたが、戸惑いも多大にあったことと思慮する。
- (廣井委員) 伊野委員と同時期に学んでおり、その当時は暴れる犬は取り押さえでトリミングをするように教わる時代であった。今の時代では、犬は家族の一員であり、我が子のように大切に思う飼い主が多い。「動物に負担がない」という取り組みは大変重要なことであると考える。

(高橋委員)

- 卒業までモチベーションを維持できるような工夫がなされていること、学生一人一人をしっかりと見ることを期待する。
- (和知) 学校内の行事やイベント、例えば体育祭や文化祭を実施することで半数以上の学生はモチベーションが上がる。しかし、集団行動が苦手な学生もあり、行事やイベントでモチベーションが上がらない学生もいる。モチベーションを下げないようにするという点に着目すると、学生との個人面談を通して、あなたのことをしっかりと見ていると感じさせたり、学生一人一人の意見を吸い上げるということに注力して取り組んで参りたい。現状では年1回、担任との面談を設けているが、必要であればその回数を増やしていく、支援が必要な学生にはしっかりと時間を使い、学生のサポートをして参りたい。

- 法令などにて求められている情報は学校ホームページにて情報公開をしており、学校での日常風景などはSNSなどで情報発信をしておりますが、どのような内容の情報が求められているかをお教えください。

(宗像委員)

→ 実習や授業の様子が分かると良いと考える。

(太田委員)

→ 情報公開をされているところなど、情報の見せ方など素晴らしいと感じる。学校として見せていくもの以外に、学生自身が学校の良さや学校生活などの情報発信する内容を考えて、HPの一部やSNSにて実践できる取り組みがあると、さらに学校のカラーが見えて共感を呼ぶのではないかと考える。ただし、事前に学生への情報発信についての指導を行うなどの取り組みは必要かと思慮する。

(國分委員)

→ 「特色ある学校づくり」の理念、その実践の様子、実績等を周知することは、とても困難なことである。特に、学校の立ち上げという、全く実態のない学校の特色の理念を周知することは、非常に難しいことであると実感した。ホームページは、この視点から大きな力となると感じる。内容の更新を密に行い、魅力あるものとすることが求められる。

(齊藤委員)

→ 進路、さらに学校選択を考えている高校生が安心できる、この学校に入学したら満足できそうだ、という情報があればと考える。

(伊野委員)

→ 卒業生の活躍や、在学生の「生の声」の発信がもっとあると良い。良い面だけでなく、課題や弱みも包み隠さずに発信することで、逆に信頼を得られるのではないかと考える。

(高橋委員)

→ 学生の表情。特に真剣な時が見たいと考える。

→ (吉川) みなさまから貴重なご意見を頂戴し、しっかりと受け止め、今後の情報公開に取り入れて参りたいと感じた。実習や授業の様子、学生の真剣な表情、そういうものをできるだけ多く公開していきたいと考える。各媒体に特色があるのでそれを踏まえて公開していきたいと認識を持ちながら取り組んではいるが、ご指摘いただいているように、現時点では不十分であると捉えている。伊野委員からのご意見にあつたネガティブな面という情報については、言葉が独り歩きしてしまう可能性があるため、媒体に掲載することはしていない。ただ、学校説明会や個別相談の際には、人口減少に伴い、犬の頭数も減少していく傾向にあることなど、動物業界にとっての課題点も説明している。実習の様子に関しても、他校ではまだ取り組んでいないことなど情報としてどこまで公開して良いのか、判断しながら情報公開を進めている。動物業界のネガティブな面を伝えても、本学園の教育を受け、技術を身に付ければ大丈夫であるという着地点にすべてを落としめるように広報活動をして参りたい。

→ (宗像委員) 貴校のLINEアカウントを友だち登録したが、実習も公開している印象を受けた。インスタグラムも更新をされているのを目にした。

→ (吉川) 本学園の広報活動において、最も力を入れているのはインスタグラムであり、我々は第二のパンフレットと称している。太田委員のご意見にあつたように、学生に投稿してもらうことも検討している。現在、インスタグラムは週6でほぼ毎日更新を行っている。新しい動物が入ったことや授業の内容の他に、教職員が地域貢献でお神輿を担いだということまで掲載しており、様々なコンテンツがある。高校生が知りたいことを発信しつつ、学校から伝えたいことも発信するため、教職員募集なども出している。いきなり爆発的にヒットすることを期待することもあったが、地道に投稿を重ね、それを高校生が見てくれることで、本学園に興味を持っていただき、入学して在校生になり、卒業生になってからもつながっていられるように尽力して参りたい。

- (下薦 僉章) 高校生たちが良い学校選びをする際にどのような情報の出し方をすればつながりを持つてもらえるのかという糸口を探したい。そういった観点で、学校選択時に重視していた内容などお伺いしたい。
- (高橋) 学校選びの際にはネット系のものは見ていなかった。学校説明会に足を運び、先生たちに会い、魅力的だと惹かれて入学を決めた。学校のアピールはしてもらいたいが、作り笑顔など嘘っぽいものには嫌悪感を抱いてしまう。先述の貴校に求めることについて、学生個々を見てほしいと述べたのは、学生が問診等で飼い主やペットを個々で診ていくこと、教員が学生一人一人を見てくれることは同様のことであり、すべてがつながっていると捉えているからである。先生方もベテラン教職員などがしっかりとサポートしており、人を見るということが学生と教職員がつながっていると感じることができれば実感しやすいと考える。

- 大学進学を勧められたり、動物分野の企業等においても大卒者の採用を優先される場合があることを伺ったことがございます。それを肯定する場合にどのような利点があると思われるかを忌憚なくお教えください。

(宗像委員)

- 大卒の方が理解が早いことはあるかもしれないが、当院では大卒を優遇していない。学業も大事であるが、コミュニケーションスキルや利他の心を持ち、何よりも動物のことを第一に考えられる人材を求めている。

(太田委員)

- 全員に当てはまる事ではないが、採用において、病院を含む企業が大卒者を優先する、もしくは、専門学校卒で就職経験(社会人経験)がある方を優先するには、いくつか理由があると思慮する。大学の授業ではグループ学習、ゼミや論文、記述式回答が多いことなどから、考える力や議論する経験が一定量ついている人が割合としては多く、入社後の業務や知識を急速に増やして行く際に理解度が比較的高いと感じることがある。専門学校教育というよりは高校教育時点での差であるとも思われるが、専門学校においては個人の興味とコミュニケーション力を伸ばしてあげることが良いと感じる。

(國分委員)

- 特にございません。

(齊藤委員)

- 特にございません。

(伊野委員)

- 実際に動物分野の知識がない大卒の方と一緒に働いた経験があるが、犬に関わる実務は何もできず、任せられることがないため、現場としてはどう仕事を振つたら良いのか非常に困惑したことがあった。そのため正直なところ、大卒者の採用を肯定的に捉えるのは難しいが、経営面やマーケティングなどの直接的には動物と関わらない部分では強みを発揮できるのではないかと考える。

(高橋委員)

- 特にございません。

- (下薦 僉章) この質問をさせていただいた背景として、専門学校教育として考えられるものは毎日突き詰めているが、いざ就職サポートをしていく際に、求人票をいただく企業から「大卒を優先している」というご意見をいただくことがある。そもそも学校種で区分けされるのはなぜだろうと疑問を感じる。人が人に教える形式であれば、大学で教えられることは専門学校でも教えられるのではないかと思慮する。企業や社会から見て、大卒者だからできること、優れていることは何かを長年我々も考えてはいるのだが、明確にはできない部分があつたため、改めて設問させていただいた次第である。少子化の影響もあり、以前よりも入学するハードルを下げている大学も出てきており、専門学校で職を極めていきたいという意思がある方も、一旦は大学で学ぶことを考えるようになってきているように近年では見受けられる。そういった状況の中で、専門学校でも、大学で習得できるとされるものも身に付くということを伝えることができれば、本学園の入学を検討してくださる方たちにとって、また一つ本校で学ぶことが安心できるものになると考える。ここにいただいたご意見を参考にしながら、従来の専門的な知識・技術を習得する中での手段として取り入れて参りたい。
- (國分委員) 教員採用試験では、出身大学名は一切関係ない。「教育は人なり」という人物本位であり、直接に非常に重きを置いている。よく出身大学で有利不利など言われるがそんなことはない。結果を見ると、合格者は○○大学が多かった、というはあるが、大学で選考はしていない。
- (齊藤委員) 教員採用試験に合格し、4月1日の入都式を終え、その後に配属された高校の入学式に出たばかりで退職を申し出る職員がおり、大変驚いた経験がある。大卒と専門卒に大きな違いがあるとは思っていない。
- (宗像委員) 大卒と専門卒の大きな違いは、目的意識があるかどうかだと捉えている。「動物を助けたい」という強い気持ちがある方が伸びる。なんとなく大学に入学し、学んだ人よりも、専門学校生の方が意識が高いと感じる。

■ その他のご意見・ご要望 等

(宗像委員)

- 特にございません。

(太田委員)

- 企業では採用枠としての考え方、総合職、専門職（技術職・営業職・開発職・企画職等）、事務職など働き方にも違いがある。企業・病院・ショップなどで働き方は異なるが、研修や育成体制など『自分の成長やスキルアップ、社会人としての成長をサポートしてくれる』ものや制度があるかないかでも、近い将来と先の目標設定に大きく左右されるため、この辺りの取り組みをされているかどうか、学校のサポートが必要な時代であると捉えている。生き生きと働いている人が一定数いる就職先かどうかを学校や先生方とともに見極めをしていくのが良いと考える。
- 少し先を見据えて業界のメディアとして、今後も協力サポートできることがあれば、一緒に学生の皆様の未来に繋げていきたいと考えている。
- (吉川) 学生の採用に関して、見極めが学校として必要であるし、学生個人でも見極めをしてもらいたい。動物業界は特殊な業界であると考えている。お互いを見ることができるインターンシップ実習の制度は非常に価値があり、といった制度を活用できるようにして参りたい。加えて、企業や動物病院との接点として、合同企業説明会を浜松町にある施設を借りて本学園独自で毎年4月下旬に開催している。そこから就職につながるケースも出てきている。大手の企業に来てもらう機会をどれだけ設けられるかを重視している。教職員の主観をどの程度、学生に対して伝えるかは永遠のテーマである。例えば「○○動物病院は厳しい」という評価があったとして、Aさんには厳しく感じられても、Bさんにとっては厳しく感じないこともあります。ただ、企業や動物病院等の情報を学校側がしっかりと把握するという面において、本学園の課題を感じている。就職担当者だけでなく、教職員一丸となって就職指導を強化して参りたい。

(國分委員)

- 第1回学校関係者評価委員会を欠席したことをとても心苦しく思う。委員の皆様や先生方の意見を聞くことができなかったことをとても残念に感じている。
- (下薦 恵子) こちらこそ國分委員のご都合の良い日程で開催することができず、お詫びを申し上げたい。おかげさまで多くの大変貴重なご意見を頂戴することができ、本学園の教育活動をより一層、高めていくことと確信している次第である。今後もご指導を賜りたい。

(齊藤委員)

- 特にございません。

(伊野委員)

- いざ自分が独立して開業しようと思った時、開業に関する知識がまったくなく、ゼロから学ぶ必要があった。トライマーは技術職であり、いつかは自分の店舗を持ってみたいと考えている学生もいるはずである。そういう将来像に備え、学校で開業に関する基礎知識も学べる機会があるとより良いと感じた。
- 例えば、開業に必要な届出や資格、テナントの選び方、雇用の仕方、経理、価格設定、コンセプト設計、集客方法等、トライマーの技術以外の知識も実務では重要となる。これらの視点を持つことで、自分の理想の職場を見つける際の判断基準になり、技術面以外の部分でも活躍できる可能性が広がり、実際に開業はしないとしても決して無駄になることはないと思慮する。
- 在学中に2年間かけて架空の店舗を立ち上げてみるというような課題があつても面白いのではないか。「どういう物件が向いているのだろう」「この単価では固定費を支払ったら利益が残らないな」「この立地では集客が難しそうだな」「自分のお店の強みは何だろう」など、現実的な視点で物事を考える力が養われると考える。最終的にできあがった“理想のお店”を具体的にイメージできれば、自分がそのコンセプトに近い職場で働くという選択もでき、働く上での学びやモチベーションアップにつながり、成長に大きく関与するのではないかと感じる。
- (和知) 動物産業経営学という授業があり、そこではペット産業の歴史から始まり、動物愛護法やマーケティング、マネジメントについて学ぶ構成となっている。マーケティングの箇所では、架空の店舗立ち上げとまではいかないが、学生自身が店長になった設定で、まずは周りの店舗の覆面調査を行い、そこで改めて自店舗の強みを考え、ターゲットをどこに絞るのかを検討することまで学んでいる。マーケティングやマネジメントは学生にとって難しい分野であり、つまらないと感じている学生もいるように見受けられる。学生が社会に出て、部下を持ったり、役職をもらったり、店長になったりした際にもう一度この教科書を見直すように学生には声掛けをしている。独立したいと考える学生は昔と比べると減少傾向にある。忙しいけれど給料が良い仕事と、給料は安めだが自由な時間が多い仕事ではどちらを希望するかと学生に問うと、大半の学生は後者を選択する。責任感のある仕事をすることはストレスに感じてしまい、ストレスを抱えたくないため出世しなくても良い、給料が安くても良いという考えを持つ学生が多くいる。こういった現状から、マーケティングやマネジメントの教育を学生に行い、その内容を理解してもらうことは難しいと感じている。店舗独立に関しては本学園の卒後教育でも開催している。実際に独立して店舗を持っている方に講師を担当いただくことで講義に深みが出ると考えるため、今後はぜひ伊野委員にも講師をお願いさせていただきたい。

(高橋委員)

- 先日の学校関係者評価委員会にて、各方面の声を聞いて大変勉強になった。それと同時に、もっと広く多くの方々にこのような委員会があることを知ってもらいたいと感じた。保護者ではなく、学生に知ってもらい、責任を持って選んだ道を全うして欲しい。選択した学校は学生のためにたくさん勉強していると知ってもらいたいと考える。